

【助成事業の名称: やわたはまGo! Go!三輪車、新町商店街お買い物マップ作成事業】

ポイント

活性化の切り札は、日本で初めての“ブラック商店街”

助成事業をきっかけに、若手組合員が商店街活動や組織運営でリーダーシップを発揮。柔軟な発想で四国初となる黒い温泉の湧出にあやかり“黒い商店街事業”をスタートさせた。商店街の街区や設備、取扱商品等様々な部分に“黒”を活用。黒い商店街の公式商品一覧「ブラックリスト」には、商店が開発した黒い商品が並び、これをターゲットとするスタンプラリー等で話題づくりが進み、商品開発力や営業力の強化にもつながっている。

商店街情報

所在地: 愛媛県八幡浜市256-4 新町ドーム2F
 商店街の類型: 地域型商店街
 地域の人口: 33,352人16,038世帯(八幡浜市2019年8月末現在)
 組合員数: 44名(2019年8月現在)
 (主な業種構成: 婦人服、呉服、日用品、飲食、仏壇・仏具、医療サービスなど)
 電話: 0894-20-8118 FAX: 0894-20-8119
 URL: https://peraichi.com/landing_pages/view/kuroi



商店街の風景

商店街の概要と近年の環境変化

八幡浜市は県庁所在地の松山市から特急で50分、四国の最西端佐多岬の付け根に位置し、北に瀬戸内海、南に宇和海を望む気候温暖な地。トロール漁を中心とする漁業の基地として知られ、九州にも近いことから古くから交易も盛んで、明治時代には「伊予の大阪」といわれるほどに栄えた。四国で一番に電灯が灯ったのも八幡浜で、かつては映画館も3軒あり文化面でも四国の先端を行っていた。現在は、温暖な気候による温州ミカンの産地として有名で地域産業としては農業に頼る部分が増えている。

新町商店街は、JR八幡浜駅から約1.5km、市役所の傍で南北に延びる約500mの街区に全蓋型アーケードを有する地域型商店街。商店街の歴史は古く、漁業に加え商工業の発展とともに明治時代には街区が形成され、四国で一番古い薬局が今も営業を続けているほか、創業100年を超える老舗が8軒ほども残っている。現在組合員は44名、服飾、日用品、和菓子等の食品を中心に市民生活に必要な商品等を提供している。

振興組合の設立は平成元年で、アーケードの設置を主な目的として組織化。当時、組合員は110を数えたという。地域の主要産業である漁業や海運が盛んであった頃は商店街も大いに栄え、地元の丸三百貨店のほか高級衣料品を扱う店も軒を並べ、地域の人たちが“町へ行く”という、新町の商店街に行くことを意味するほど地域を代表する商店街であった。しかし、時代と環境の変遷の中で、残念ながらシャッターを下ろしたままの店も増えつつある。一方、近隣には市場や交流館が併設された「道の駅・みなとオアシス・八幡浜みなと」等の集客施設もあり、ここを訪れる観光客を商店街に呼び込むことが新たな課題の一つとなっている。



八幡浜ちゃんぽんは市民のソウルフード



温州ミカンの段々畑が広がる



地形を生かしたスポーツ大会を開催

助成事業の概要とその成果

当商店街では、街区の中程に設置された多目的広場「新町ドーム」の運営・管理、アーケード等商店街施設の維持のほか、昭和59年から続く毎月8日開催の「八日市」、「夏の土曜夜市」、「年末年始の売り出し」等を実施してきたが、環境は厳しさを増す一方で、何とか商店街に客足を呼び戻そうと助成金を活用して市民参加型イベントを展開。青年部が中核となる事業・活性化委員会が中心となって、平成25年は「やはたはまGO！GO！三輪車」を、26年度には広域からの集客とかつてのにぎわいを感じてもらおうと、名所や歴史を掲載したクーポン付きの「新町商店街お買い物マップ」を作成した。

【平成25年度：やはたはまGO！GO！三輪車】

7月中旬から8月にかけて第1土曜日に開催している土曜夜市に合わせて、約500mの商店街区を利用した三輪車レースを開催。商店街の若手を核に、市役所の職労青年部の協力を得て、レースは子供の部と大人の部に分かれ、それぞれ80名の参加者が街区を走り抜けてタイムを競った。ゲストにプロの競輪選手を招いたほか、地元出身の芸人やタレント加わってイベントを盛り上げ、5,000名を超える観客で賑わった。大きな大人が小さな三輪車を必死に漕ぐ姿はユーモラスで笑いを呼び、マスコミにも取り上げられて地域の話題となった。

【平成26年度：新町商店街お買い物マップ作成事業】

かつて「伊予の大阪」と呼ばれ、地域商業の中心地であった八幡浜には現在も往時を偲ぶ建築物が点在している。市内の人口減少やネット通販の増加等で商店街への集客は依然厳しいものがあるが、こうした八幡浜の知られざる名所や歴史にスポットを当てるとともに、各組合員店舗のセールスポイントを掲載したお買い物マップを作成。スタンプラリーの台紙やクーポン券を加えたほか、地域のソルフード「八幡浜ちゃんぽん」の店舗情報を盛り込み、グルメファンの獲得と地域の歴史を知ってもらうことに努めた。また、PRには事業委員長が中心となって行政や金融機関、道の駅等に働きかけてマップを置いて貰っている。

<助成事業実施の成果>

参加型イベントの「やはたはまGO！GO！三輪車」は参加者も見る側も面白いイベントとして人気を呼び、その後も新たなアイデアを加えて継続して開催。また、作成・配布した「お買い物マップ」は、市内の人々には個店を知ってもらうツールとして、市外からの来客には観光ガイドとしても使ってもらっている。実際、このマップを片手に組合員の店舗を訪れてくれるお客さんもおり、集客促進の効果を挙げる事ができたと実感している。

助成事業以降の商店街活動

～黒い商店街プロジェクト・ブラックリストでイメージアップ～

助成事業終了後も三輪車レースやスタンプラリー、八日市等で集客と販売促進に努めてきたが、依然として商店街を取り巻く環境は厳しい状況が続いていた。こうした中で、たまたま商店街の近くに湯の色が黒い「モール泉」が湧出し、「八幡浜黒湯温泉みなと湯」が28年8月に開業。起爆剤を探していた若手から「黒い温泉のそばに黒い商店街があっても良いのでは」という発案があり、「黒い商店街プロジェクトがスタート」。若手理事達は夜の12時過ぎまで討論を重ねて、黒を基調とする様々なアイデアを出し、「黒いのだ餛」 「黒い酢豚定食」 「黒いせっけん」等を開発。これらを「ブラックリスト」として取りまとめてイベントに盛り込んだ。以下はその一例である。



◎黒い自動販売機

商店街のプロジェクトに、飲料会社が呼応して黒い自販機を設置。販売するコーラは黒で、タイミングよく導入され、今では2台が設置されている。

◎黒い巨大学生服

組合員の洋品店が店舗popとして大きな黒い学生服を吊るしたもので、大きさは3メートル近くある。全国的にも学生服を活用したpopは少なく、今では黒い商店街の象徴的スポットとなっている。

◎黒い神社

かつて新町商店街が海に面していた頃は、棧橋が架かる出島に「住吉神社」が祀られていた。100年前に埋め立てられ、その場所で住吉呉服店が創業し店内に社を祀ってきたが、これを修繕する際に黒漆で塗り替えて店舗の一階正面に設置。街を行く人々にも見てもらえ、参拝も可能とした。この神社、縁結びのご利益があってカップルが生まれ、同店の店主もこの神社で神前結婚式を挙げられている。

◎黒いポスト

郵便のポストといえば赤であるが、新町商店街の郵便ポストは“黒”である。黒い商店街プロジェクトの第2弾の目玉として郵便局も参加してくれて登場したもの。隣の店舗では「黒い絵ハガキ」を販売しており、絵ハガキを書いてすぐ投函できるサービスを提供している。

◎暗闇の館

当初はお化け屋敷として企画したスペースで、“視界がゼロの状況の方が面白い”との発想から「暗闇の館」が誕生。人気となって行列ができるほどの話題となったが、現在はイベント時に運営している。

【黒い商店街のスタンプラリーと対象商品】

黒い商店街プロジェクトのスタートに伴い、商店街では「黒い商店街スタンプラリー」を実施。期間中に商店街の店舗で“黒い商品”を購入するとスタンプがもらえ、5個溜まると黒湯温泉みなと湯でオリジナルの黒いタオルがもらえるというもの。参加店舗が提供した商品は、「いかすみ海鮮ちゃんぽん」「黒さつま鶏の炭火焼き」「黒いキャラメルナッツ」「懐かしの白黒記念写真」「いか墨かまぼこ」「黒いプレス念珠」「黒い鞆」「黒いパスト」「黒のヒジキコロッケ」「黒豆のモンブラン」「黒い卓上IH調理器」「黒いお好み焼き」等々、ユニークな商品が並んだ。

【黒い商店街の第5弾】

現在商店街では「黒い商店街プロジェクト第5弾」を進めている。ここでは、黒いベンチの設置と街の装飾やシャッターアートを黒に、さらに近隣のスーパーに黒い駐輪場がオープン、「道の駅みなとオアシス八幡浜みなと」では黒いレンタサイクル、旅行代理店による黒いミステリーツアー、ビジネスホテルで黒い部屋をオープンするなど、地域を挙げての“黒”への取り組みが進みつつある。



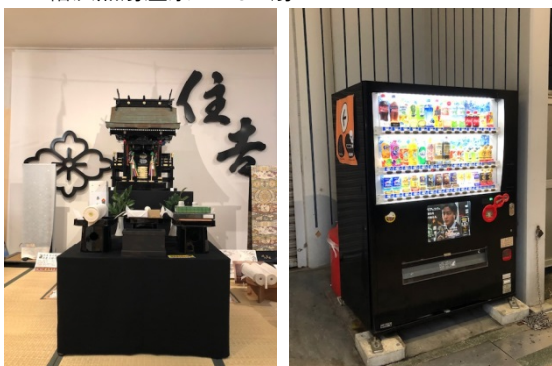
複数の撮影スポットがありSNSで画像を拡散



最新の黒本は120頁で本屋等で販売している



八幡浜黒湯温泉 みなと湯



自治体による活性化支援等

八幡浜市

八幡浜市の人口は現在33,000人で、年々減少傾向にある。かつては「伊予の大阪」といわれるほど商工業が栄えたが、現在は温州ミカンの生産と漁業が中心となっている。特に、海が迫り平地が少ない土地柄から、大きな製造業等による雇用の場が少なく、外に出ていく若い人が多い。商業の面では、大型店舗やドラッグストアに購買人口が流出しているほか、高速道路等の整備が進み、休日には松山まで車で買い物に出かける人も増えている。

現在、市内には5つの商店街があり4つが振興組合として法人化しているが、人口減少と大型店への流出、さらに後継者不足から閉店し、シャッターを下ろしたままとなっている店舗が増えている。こうした中で、新町商店街の取り組みはユニークかつ創意工夫に富んだもので、活性化に貢献するものと期待している。

こうした商店街の活性化を支援するため、市内への誘客や地域の伝統行事の振興を図る取り組みを支援する「商店街活力UP事業補助金」のほか、商店街のイベント活動等を支援する「市民提案型まちづくり事業補助金」の制度を設けて事業費の一部について助成を行っている。新町商店街ではこれらの助成制度を活用してブラックリストのパンフレットや新聞づくりを行っている。

また、八幡浜市のソルフード、地元名物の「八幡浜ちゃんぽん」を取り扱う店が40店舗以上あり、市では地域の名物として普及に力を入れている。今後は商店街とも連携してPRし、「八幡浜ちゃんぽん」の知名度も高めていきたいと考えている。

商店街の今後の戦略

若い組合員の力で賑わいを取り戻す

現在、地域の商店街はどこも厳しい状況に置かれている。かつては新町商店街も110を超える組合員がいたが、現在はその半分以下で、八幡浜市自体の人口も年々減少しており、商業への影響も大きなものがある。こうした状況下では思い切ったことを、とにかくやってみようと考えて「黒い商店街プロジェクト」をスタートさせた。プロジェクトでは若い事業委員会が中心となって、京都の激辛商店街などを参考に、たまたま黒い温泉が出たことから「黒い商店街」を考えたもの。最初から“黒いもの”があるわけではなく、皆でアイデアを出し合って実行に移し、徐々にハード面や黒い商品が充実してきた。“黒は縁起が悪い”などの声もあったが、強引に取り組んできた結果予想以上の反響があり、マスコミにもかなり取り上げられて相当なPR効果があった。

これからの商店街活動の基本は、個々の店がいかに頑張っていくかにある。組合員数は減ったが地力のある店が今も健在で、これらの店に期待をしている。個々が光り、アイデアを出して、それが商店街としてまとまっていくことが強みと考えている。今後は、黒い商店街プロジェクトを核に、恒例となっている八日市や土曜夜市で盛り上げ、商店街を再び活性化へと導いていきたい。



～ 仕掛け人 ～

八幡浜新町商店街振興組合

左 河野竜宏 中 理事長竹内伸行 右 宮川知也

取材を通じて明らかになったこと

現在、地域の商店街はどこも厳しい状況に置かれている。かつては新町商店街も110を超える組合員がいたが、現在はその半分以下で、八幡浜市自体の人口も年々減少しており、商業への影響も大きなものがある。こうした状況下では思い切ったことを、とにかくやってみようと考えて「黒い商店街プロジェクト」をスタートさせた。プロジェクトでは若い事業委員会が中心となって、京都の激辛商店街などを参考に、たまたま黒い温泉が出たことから「黒い商店街」を考えたもの。最初から“黒いもの”があるわけではなく、皆でアイデアを出し合って実行に移し、徐々にハード面や黒い商品が充実してきた。“黒は縁起が悪い”などの声もあったが、強引に取り組んできた結果予想以上の反響があり、マスコミにもかなり取り上げられて相当なPR効果があった。

これからの商店街活動の基本は、個々の店がいかに頑張っていくかにある。組合員数は減ったが地力のある店が今も健在で、これらの店に期待をしている。個々が光り、アイデアを出して、それが商店街としてまとまっていくことが強みと考えている。今後は、黒い商店街プロジェクトを核に、恒例となっている八日市や土曜夜市で盛り上げ、商店街を再び活性化へと導いていきたい。